

令和5年12月定例教育委員会会議録

日 時	令和5年12月15日（金） 午後1時30分～午後2時40分
場 所	秦野市役所教育庁舎3階大会議室
出席委員	教育長 佐藤 直樹 教育長職務代理者 小泉 裕子 委員 飯田 文宏 委員 牛田 洋史
欠席委員	委員 内田 晴久
委員以外 の出席者	教育部長 原田 真智子 教育指導課長 関野 貴之 文化スポーツ部長 宇佐美 高明 教育研究所長 市川 潤一 教育総務課長 守屋 紀子 生涯学習課長 水島 一葉 学校教育課長 坂口 憲 図書館長 山本 英範 学校教育課担当課長 上條 秀香 教育総務課課長代理 三川 辰徳 教職員課長 進藤 大輔 教育総務課主査 廣田 達也
傍聴者	なし
会議次第	<p style="text-align: center;">12月定例教育委員会会議</p> <p style="text-align: center;">日 時 令和5年12月15日（金） 午後1時30分</p> <p style="text-align: center;">場 所 秦野市役所教育庁舎3階大会議室</p> <p style="text-align: center;">次 第</p> <p>1 開 会</p> <p>2 会議録の承認</p> <p>3 請 願 等</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 新年度準備期間に係る陳情について</p> <p>4 教育長報告及び提案</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 令和6年1月の開催行事等について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 臨時代理の報告について</p> <p style="padding-left: 40px;">ア 報告第16号 令和5年度教育功労者等表彰・教育長表彰の 被表彰者の追加について</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) みらいの学び舎シンポジウムの実施結果について</p> <p style="padding-left: 20px;">(4) 第3回秦野子ども未来づくり会議の結果について</p> <p style="padding-left: 20px;">(5) 子ども等に関する事案について</p> <p style="padding-left: 20px;">(6) 秦野市学びの基盤プロジェクトが目指すものについて</p>

	<p>(7) Future Cycle Projectが目指すものについて</p> <p>(8) 広域連携中学生交流洋上体験研修事業の結果について</p> <p>(9) 企画展「お金のはなしあれやこれーお金をとおして見る秦野の歴史ー」について</p> <p>5 協議事項</p> <p>(1) 令和6年度秦野市一般会計（教育費）予算編成について</p> <p>(2) 上小学校長による上幼稚園長の兼職について</p> <p>6 その他</p> <p>(1) ヤングケアラーの早期発見と支援体制の充実に向けて</p> <p>7 閉 会</p>
会議資料	別紙のとおり

佐藤教育長

ただいまから、12月の定例教育委員会会議を開催いたします。
 なお、本日、内田委員から所用のため欠席するとの御連絡をいただいております。

それでは、お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

2、会議録の承認。

まず、会議録の承認につきまして、御意見、御質問等ありましたらお願いします。

非公開案件につきましては、会議終了後、事務局にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特によろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、ないようですので、会議録を承認いたします。

次に、4、教育長報告及び提案の(2)臨時代理の報告について、ア報告第16号、令和5年度教育功労者等表彰・教育長表彰の被表彰者の追加については非公開情報が含まれるため、(5)子ども等に関する事案については個人情報が含まれるため、会議を非公開としたいのですが、よろしいでしょうか。

—異議なし—

佐藤教育長

では、4の(2)、(5)は非公開といたします。

次に、請願等について、を議題とします。今定例会には、「新年度準備期間についての陳情」が提出されております。

まず、陳情書の趣旨について説明をお願いします。

教育総務課長

陳情の趣旨等について、御説明をいたします。

東京都港区の特定非営利活動法人「スクール・ボイス・プロジェクト」代表理事の大野様から、「新年度準備期間についての陳情」を受理しております。

陳情の趣旨といたしましては、新年度が始まる4月当初の教職員の多忙さについて、当該法人が全国の教職員を対象に行ったアンケートにおいて、90%以上の回答者が、新年度の準備期間が不十分なことによって、「異動者が必要な情報を得られない」、「初任者の支援が十分にできない」などといった影響があるとした回答や、自治体によって大きく異なる4月の始業式の日程が、新年度に向けた準備期間の十分な確保に大きな影響を及ぼすとして、4月の新年度準備期間を、どの年も暦に関わらず、平日5日以上を確保できるようにしてほしいという旨が記載されております。

説明は以上となります。

佐藤教育長

この陳情については、陳情者から意見陳述の申し出がありませんでした。

それでは、本件の取扱いについて御説明をお願いします。

教育総務課長

本件の取り扱いについて、御説明申し上げます。

過去の取扱いでは、委員の皆様から御意見をいただき、討論を行っておりますので、本日も同様に御意見をいただき、討論を行っていただければと思います。

そして、この陳情について、採択、趣旨採択、不採択、継続審査の採決をしていただきたいと思います。

以上です。

佐藤教育長

今説明がございましたが、過去の取扱いと同様に委員の皆様から御意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

飯田委員

この陳情にも記載されていますが、4月の年度当初というのは、全ての教職員にとって多忙な時期であり、ましてや4月1日に異動された教職員の方にあつては、尚更のことではないのかなと私も認識しています。

ちなみに、本市でも始業式の日をずらしたことがあったように記憶していますが、本市では新年度の準備期間を確保するために何か取組を行っていることはないのでしょうか。

教職員課長

まず本市での基本的な考え方と対応について御説明いたします。考え方については、本陳情にありました趣旨と同じく教職員の多忙化の解消が急務となる中で、これまでの新学期の準備期間を確保することが重要であると考えております。対応については、

佐藤教育長
牛田委員

具体的には令和3年度、4年度は、4月1日から5日までの間に
週休日が入っておりますので、始業式を1日後ろにずらして4月
6日始業としていました。

また、通常は新学期が始まった4月7日から8日に実施をして
いる離任式を、3月中に終わることができるように変更したう
えで、さらに、引き継ぎ等がより必要な管理職の内示を前倒しに
するなど、十分な準備期間の確保に努めております。

以上です。

他はいかがでしょうか。

この陳情の理由に記載されている、90%以上の回答者が、新
年度準備期間が不十分で、1つ目は異動者が必要な情報を得られ
ない、2つ目としては初任者の支援が不十分になってしまうとか、
校務分掌の準備が不十分になる、こういった指摘があり、私も現
場を経験した身としてよく理解しているところです。

今教職員課長からもお話がありましたけれども、こういった年
度初めの準備に係る時間を十分に確保するために、市教育委員会
としても色々な工夫をされているというようなお話しでしたが、
引き続き、新年度を迎えるに当たって子どもたちが安心して、始
業式あるいは入学式に出席できるように、市教育委員会としても
工夫を重ねながら努力をしていっていただきたいと思います。私
も陳情の趣旨については理解をしています。

佐藤教育長
小泉委員

他はいかがでしょうか。

私も新年度の多忙さ、ましてや異動を伴った先生方の大変さにつ
いては想像ができます。やはりそういった意味からも、少しでも
平日で仕事のできる時間を、ということですが、平日に
5日間の準備期間をとった場合ですが、4月1日が日曜日から始
まった場合は4月10日が始業式になってしまうと思います。
色々なパターンがあるので、それを網羅しなければならないと考
えると、なかなか難しい問題があるのかなと思います。

しかし、秦野市教育委員会としても様々な対策をとっていただ
いているので、先生方の多忙化も少しでも解消していけばいいの
かなと思っています。

佐藤教育長

この陳情書の図によると、令和5年度は厚木市や小田原市など
は4月5日が始業式ということですのでよろしいですか。また、平塚市
や伊勢原市などは4月6日が始業式ということですよ。

教職員課長

参考までに、先日開催された県内15市の課長会議で確認した
情報によりますと、茅ヶ崎市、伊勢原市、座間市の3市につきま
しては、日程の都合で始業式を後ろにずらしていた2年の間に、

佐藤教育長

管理運営規則を改正して4月5日までを休業日としたので、令和6年度は4月8日月曜日が始業式となります。

それ以外の12市につきましては、規則を改正せず、4月5日を始業とするとのことでした。

他はいかがですか。

それでは、色々とお話を伺ったのですが、ここで採決に移りたいと思います。

この陳情では、新年度準備期間を平日5日以上確保できるようにしてほしいという趣旨ですが、本市としても新年度の準備期間を確保するため、始業式の日程を後ろ倒しにするといった対応を行った実績がありますので、この陳情の趣旨は叶っているのではないかと考えられます。

しかし、授業日数の確保等を考慮すると平日で5日以上準備期間の確保は難しい状況にあるため、この陳情は趣旨採択とすることにしたいと思いますが、御異議はございませんか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、この陳情につきましては、趣旨採択とさせていただきます。

続いて、次第4、教育長報告及び提案について、説明をお願いします。

文化スポーツ部長

報告の(1)令和6年1月の開催行事等について、私から報告をさせていただきます。資料1を御覧いただければと思います。

まず、1月4日木曜日になりますが、仕事始め式になります。

次に、翌日の5日金曜日です。新年賀詞交歓会を、今年は秦野商工会議所で開催いたしますので、教育委員の皆様には御案内が届いていると思いますが、御出席のほどよろしく願いいたします。

次に1月9日火曜日です。小・中学校及び幼稚園の始業式でございます。

同じく9日火曜日は、第8回「よむよむDAY」になります。

次に1月12日金曜日は、定例の記者会見がございます。

1月13日土曜日から3月17日の日曜日まで、はだの歴史博物館におきまして、企画展「お金のはなし あれやこれーお金をとおして見る 秦野の歴史ー」という展示を行います。詳細は資料8で御説明をいたします。

次に、12日金曜日と26日金曜日はブックスタート事業になります。

次に、1月19日金曜日です。定例教育委員会会議がございま

すので、御出席のほどよろしくお願いいたします。

ページをおめくりください。資料No. 1の裏面になります。

翌20日土曜日、令和5年度秦野市教育委員会教育功労者等及び教育長表彰式を開催いたしますので、連日になりますけれども、御出席を賜りたいと思います。また、終了後は、令和5年度のはだのっ子アワードの表彰式も執り行いますので、よろしくお願いいたします。

また、同じく20日土曜日ですけれども、PTA連絡協議会等と共催いたしまして、家庭教育支援講演会を保健福祉センターで行います。テーマは「成長期の栄養と今でも食事で選手を応援する理由」ということで、講師は、横浜高等学校野球部合宿所の元寮母さんでありまして、管理栄養士でもある渡邊元美さんになります。

次に、1月21日日曜日です。図書館において、視覚、聴覚にハンディキャップがある方、障がいがある方なども楽しめるようなバリアフリー映画会として「長いお別れ」を上映いたします。

次に、25日木曜日、今年度第5回目の園長・校長会を開催いたします。

最後ですけれども、28日日曜日、図書館におきまして、日本や世界の昔話を語るおとなのためのおはなし会を開催いたします。

1月の開催行事等は以上でございます。

それでは、続きまして(3)みらいの学び舎シンポジウムの実施結果について御報告いたします。資料No. 3を御覧ください。

将来の学校施設がどうあるべきかを市民の皆様と共に考えていくきっかけづくりとして、11月23日、本町公民館において、みらいの学び舎シンポジウムを実施しました。当日は、コミュニティ・スクール連絡協議会を兼ねて実施いたしましたが、来場者は76名、うち一般参加者が44名ということでございます。

また、教育委員の皆様にも足を運んでいただき、ありがとうございました。

実施内容ですけれども、3部構成で、プログラム1「これからの学校を考える」と題し、学校施設に係わる現状や課題を踏まえ、将来の学校施設のあり方を考えていくための導入として、動画を視聴していただきました。

次に、プログラム2、ディスカッション「わたしたちが考えるみらいの学校」と題し、5名の方に御登壇いただき、動画の内容を踏まえ、それぞれの立場からの学校に対するお考えをお話しい

教育総務課長

いただきました。登壇者からは、新しい学校のあり方に対する期待や学校施設の複合化に当たっての交流方法、一方で、懸念される防犯面の課題などの意見が出されました。

そして最後、プログラム3「みらいを生きる『はだのっ子』の学び舎」と題し、佐藤教育長に、現在の子どもたちの学びや施設に関する事例について、動画を交えながら御紹介いただき、将来にわたる学校施設の考え方やビジョンについて御説明をいただきました。中でも、教育長からは、「統廃合ありきではない。しかし、統廃合も義務教育学校も選択肢の1つである」というメッセージをいただきました。

3ページ目以降は参加者アンケートとなっておりますが、参加者からは、「夢のある改革の話だと思いワクワクして聞いた」「様々な方面からの話を伺うことができ、これからのこの地域で子育てをしていく母として今後の秦野が楽しみになってきた」などのうれしい御意見をいただくとともに、「地域のランドマークとして学校があること、考えて動いていかないと急には変わらない」、また、「地域や周りを巻き込んだ学校にしていくのであれば、考えて作っていく段階で、もっと一般の興味・関心ある人を一緒に参加型にしてほしい」といった多く人と話し合っただけで進めていくことの重要性に関する御意見、そして、施設も大事だが教育の中身が大切など、たくさんの御意見をいただいたところでございます。

このシンポジウムの開催をはじめの一步といたしまして、この大きな問題について、多くの皆さんの意見、アイデアをいただきながら丁寧に進めていくことの重要性を改めて感じた次第でございます。

報告は以上となります。

教育指導課長

私からは、(4) (6) (7) について御報告いたします。はじめに、(4) 第3回秦野こども未来づくり会議の結果について、資料No. 4を御覧ください。

今年度最終回になります第3回は、児童生徒委員のほかに、教職員や保護者、学校運営協議会委員、市議会議員、教育委員の方々に参加いただきました。

下段3、内容の(1)「ものづくりの街、アイデアの街秦野」講演を御覧ください。今回は、まず、地元の企業の方にもものづくりに対する思いを語っていただき、地域や未来に対する考え方を感ずることができました。

2ページ目を御覧ください。その後、中学校区ごとに議論、発

表したテーマをあげさせていただきました。ここで模造紙にまとめたものは、みらいの学び舎シンポジウムの会場で掲示させていただき、市民の方にも見ていただくとともに、各校の集会や中学校区に応じて学校運営協議会などで紹介をしております。

名称変更した今年度、子どもたちは大人を巻き込んで、(4) 秦野こども未来づくり会議委員長の話にもあるように、明るい未来づくりにつながる時間を設けることができました。

続きまして、(6) 秦野市学びの基盤プロジェクト研修会の結果について、資料No. 5を御覧ください。

本年度は15校に広がりを見せており、さらに、授業改善に向けた新たな検証改善サイクルに向け、本事業の中核となる埼玉県学力調査を創設された、文部科学省地方教育アドバイザーの大江氏に、このプロジェクトで結果を出されている教職員代表とともにパネルディスカッション形式でお話をいただきました。前回の総合教育会議で教育長が紹介された動画にあった教職員代表が、生の声で参加者に説明し、アドバイザーからプロジェクトの意義づけや価値づけをしていただき、授業力向上の方向性を考える場となりました。

2ページ目を御覧ください。オンラインを含めた86人の参加者からは、パネルディスカッションの後、多くの感想をいただきました。「多くの先生と対話しながら改善に努める」「この学びの基盤プロジェクトをきっかけとしてレベルアップができるように努めたい」と非常に前向きな言葉が多くあり、今後のプロジェクト推進へ拍車がかかりました。

最後に(7) Future Cycle Projectの結果について、資料No. 6を御覧ください。

地域や民間との協働の中で新たな学びプロジェクトを進めているところですが、今回、自転車の安全走行技術と交通インフラに関する安全・安心な社会を考えることを目的に、秦野市教育委員会、湘南ベルマーレ、ソフトバンク、不二家秦野工場が協働し、交通安全促進に係る新しいプロジェクトとしてFuture Cycle Projectを実施いたしました。

当日は、北京オリンピック代表で出られたベルマーレ・レーシングチーム監督、宮澤氏の御経験とともに、県警の方から、ヘルメット着用の義務化や自転車に関わる事故などについてお話をいただき、交通安全に目を向けるよい機会となりました。

なお、資料裏面には生徒の感想を掲載しておりますので、御確認ください。

私からは以上です。

それでは、私から（８）（９）について御報告をいたします。

まず初めに、（８）広域連携中学生交流洋上体験研修事業の結果についてでございます。資料No. 7を御覧ください。

こちらの研修は、今年度8月5日土曜日から7日月曜日までの2泊3日で実施いたしました。秦野市から37名、そのほか4町1村の中学生が38名、全体で75名の中学生が参加いたしました。当初の渡航先は新島でございましたが、台風6号の影響に伴いまして海の上はかなりうねりも出ておりました。その状況を踏まえまして望星丸と調整した結果、清水港や御前崎港を停泊地としまして駿河湾内を航行する研修にスケジュールを変更いたしました。研修中は、駿河湾内の状況を見ながら、望星丸の指示やアドバイスのもと、安全なスケジュールで無事に実施することができました。

研修内容につきましては、皆様のお手元に事業報告書をお配りしていると思っておりますが、7ページから18ページに記載しているとおりでございます。集団での船上生活、海洋観測、ロードワーク、デッキディナー、洋上フェスティバル、星空観測という形で研修を行いました。今回は予定変更の関係で研修スケジュールを変更した結果で、1日目には御前崎港と、2日目には清水港で、船の上からと岸壁から花火大会を鑑賞することができたということになりました。

事業報告書の53ページから64ページまでにつきましては、参加者と保護者のアンケート結果を掲載しております。参加者からの回答として、54ページになりますが、Q9、他の学校や他の市町村の中学生との交流について伺ったところ、「良かった」という回答が92%、また、Q10のチャンスがあれば、また洋上体験研修に参加したいですかという質問に対しては、73.4%の中学生から「参加したい」という回答を得ております。

保護者からの回答もいただいております。56ページと57ページに同様の質問をしておりますが、保護者からも「良かった」との回答を多数得ております。詳細については、事業報告書をお時間のあるときに御覧いただければと思います。

次に、資料No. 8、はだの歴史博物館の企画展「お金のはなしあれやこれ」について御報告いたします。

今年に入りまして新しい紙幣への変更と新たな図柄が発表されて、来年7月から、1万円札については渋沢栄一、5千円札については津田梅子、千円札は北里柴三郎になるということで話

題となっております。また、近年、キャッシュレス決済の導入や仮想通貨の導入などが進み、本市におきましても、電子地域通貨の導入に向けて現在取組を進めているところでございます。

このように、お金のあり方に大きな変化が生じておる状況の中で、海外の情勢に煽りを受けた物価高や将来の貯蓄のため政府から投資が進められているなど、そういう状況もございまして、市民のお金に対する関心も一層高まりつつあります。

そこで、今回は、お金の役割と変遷を改めて見つめ直すとともに、税金や銀行をはじめとする、また地元の渋沢の峠にある鉾山の跡など、このようなところを資料やパネルで解説して紹介したいという内容となっております。

なお、先日、はだの歴史博物館の職員が、東京都の北区にございますお札と切手の博物館に出向きまして、今回、資料の借用等も進めておりまして、現在、1月13日からの企画に向けて、はだの歴史博物館では準備を進めております。

期間につきましては、1月13日から3月17日まで、はだの歴史博物館の第2企画展示室で開催いたします。

私からは以上です。

佐藤教育長

説明が終わりましたが、教育長報告及び提案に対する御意見、御質問をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

飯田委員

資料No. 3のシンポジウムですが、教育長、教育総務課長、お疲れ様でした。私も参加させていただいたのですが、この感想を見ても、なかなか色々前向きな意見が多かったなというのを感じました。

また、感想の中には2回、3回と続けてほしいという意見や、あとは若い意見を取り入れてくださいという意見があるのですが、今後の展開として、慎重に進めて時間をかけていく事業だと思うのですが、今後そういったシンポジウムとかの開催予定など、もし分かれば教えていただければと思うのですが、よろしく願いします。

教育総務課長

現在のところ具体的にいつ行うというところまでは決まっていはいないのですが、やはりシンポジウムを担当した職員の感想としても、こういったものを何度も何度も重ねていかなければならないだろうという話が出ていますので、2回目以降の開催について今後検討していきたいと思っております。

また、先月開催したシンポジウムでは、一方的にこちら側から話すというような形だったのですが、もう少しワークショップのようなものを取り入れて、皆様からの意見を聞くような場面など、

佐藤教育長

そういった形でまたやっていきたいと思っております。

学校運営協議会においても、昨年の段階から、それぞれテーマ設定をしていただき、継続的に話をしていってほしいということをお願いしてあります。

それとコミュニティ・スクールに関して、今回、学校運営協議会の連絡会も兼ねているのですけれども、飯田委員からも御意見をいただいている、来年はおそらくすべての小・中学校で設置に向けた動きが加速すると思いますので、その中で全市的にも学校運営協議会では議論を進めていく、そういうふうを考えています。

他はいかがですか。

小泉委員

今の飯田委員の御意見と重なるところがあるのですけれども、まず、個人的には早退させていただきましたので、教育長のお話が聞けなかったことがとても残念です。その前までは聞かせていただいたのですけれども。

第1回シンポジウムがこのような形で開催できたことは、大変意義深いことだなと思いました。2回、3回と重ねる中で、市民の声とか話し合いの場をつくり、より現実的な方向へ舵を切れたらいいかと思いました。

今回参加された皆さんは、これからの教育に高い関心をお持ちの方が多くという感じがしました。真剣に未来の学びについて考えてくださっている様子が伺えるような感想が多く、これからの議論が白熱していきそうな感じがいたします。

中でも、様々な年代の方、特に10歳代とか20歳代の方も参加してくださっており、とてもしっかりした意見を書いてくださっているのに驚きました。私としても、11番や31番の方のような感想や意見は、同感するところが多いなと思いながら感想を読ませていただきました。

佐藤教育長

ありがとうございました。

実はこの後、12月5日でしたか、生徒会意見交換会があったのですね。それに私、行きまして、生徒会の代表に教育総務課がつくった動画を見ていただいて、生徒会長の9人と話をしました。やはり世代間で捉え方が違っていて、子どもたちは非常に現実的な話で受けとめていたのですけれども、ただ、やはりいい意味で子どもなので、今の育ってきた学校施設をベースに話をするのは、例えば文部科学省のイラストを見せたときに、まず、廊下が開放的なのは嫌だと。廊下がないと寒いとか、壁がないと寒いとか。いや、そうじゃなくて取り外しもできるよという話もしましたけれども、やはり子どもたちって今の学校施設に慣れていま

牛田委員

すから、そういう点で言うと現実的な話が多かったなと思っています。引き続き、こういった場を持ちたいなと思います。

他はいかがですか。

みらいの学び舎シンポジウムの実施、お疲れ様でした。回覧板で事前の案内等をされて、周知にも力を入れられた割には、一般の参加者が44名というのは少し寂しいなという感想を率直に持ちました。今回こういった形で市民共通の大きな課題ということで提供されましたので、これからますます関心が高くなって参加者も増えてくるのではないかと感じているところです。

先ほど教育総務課長から話がありましたが、私も出席していて、3ページの2番の40歳代の方が2つ目の段落で「ひたすら話を聞くのみだったので」と書いてあって、「一部の方、選ばれた方のみでなく、みんなで考え話し合っていきたいですね」というアンケートの記載がありました。私も、少しフロアからの意見を取り上げられる場面もあるのかなと思ったのですが、今回は、まずはスタート、課題提供ということでよかったのかなと思います。

10ページの31番の方が書かれています、「教育長も言われていたように、本日の会が市民に秦野の未来に向けての本市の教育施策を示す第一歩になる……次回は市民の参加を多く集める中で、このようなシンポジウムを行っていけばさらによい」、このような流れに、これからつながっていくのかなと思っています。

これは私の感想ですが、教育長あるいは教育総務課長のこの課題に取り組む、フラットでニュートラルな視点での話、これもとてもよかったのではないかと思います。教育長から、正解の中から正解を選ぶという究極の選択を迫られるようなことになるというお話がとても印象的だったのですが、難しい判断をいずれはしていかなくてもはいけないと思いましたが、回を重ねながら、よりよい学びの環境を市民の皆さんとともに、私も含めてみんなで一緒に考えていきたいという感想を持ちました。

以上です。

佐藤教育長

ありがとうございました。実は当初、私も学校運営協議会だけではなくて、一般の方も含めてグループワークを実施してはどうかという話はしたのですが、最初からというのはかなりハードルが高いと、教育総務課ともお話をさせていただいて、このような形をとらせていただきました。次回以降、少しワークショップのようなものが入ってくるかと思っています。

他はいかがですか。よろしいですか。

では、他の案件につきましていかがですか。

小泉委員

資料No. 5、先ほどのお話と重なるところが大きいかと思えますけれども、令和5年度に学びの基盤プロジェクトの参加校が15校まで広がった、これはとてもいいことだと思いますが、全校に規模拡大できることはとても望ましいと考えるのですが、先生方の感想にもあるように、まず1つ目は、「2年目となる本校はこれから分析を本格的に行っていくが、本研究会での学びを生かして進めていきたい」とか「『自分の学校・学年では何ができるか』を考えるきっかけになった」とか「今回の内容を学年・学校に持ち帰り、多くの先生と対話しながら改善に努めていきたい」とか「今日得たこと・考えたことを自校に戻って発信していきたい」と、学校の皆さんと共有し研究を進めていこうという姿勢がたくさんこの感想からも伺われて、ここがこれからとても大事なところなのだろうと感じました。

佐藤教育長

私も手応えは非常に感じています。ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

飯田委員

資料No. 7の広域連携中学生交流洋上体験研修事業ですが、この事業は、2泊3日なのですが、これで本当に子どもたちが成長できる事業なのかなと、私もとても感じています。

市長のあいさつの中にもありますけれども、平成13年から行われているということで、もう20数年やられているのですが、東海大学との連携もあると思うのですが、望星丸も大分年数がたっていると前に聞いたのですが、ぜひ、続けていっていただければと思っております。

1点、毎回思うのですが、事業報告書はいつも素晴らしいものができあがってきているのですけれども、もちろん参加者には渡っていると思うのですが、ぜひ参加されないお子さんとか先生または地域の方にも、どこかでこういうものを見ていただければと思うのですが、例えば公民館に置くとか、そういうことはいかがでしょうか。

生涯学習課長

ありがとうございます。実は、この研修については、報告書はホームページにも掲載しますが、今、飯田委員から御提案のとおり、公民館に配架できるように準備を進めたいと思います。

あと、参考までに、この洋上体験研修は、今回、天候の関係がイレギュラーでしたので、船側のスタッフも、色々アドバイスをしていただき、また、スケジュール変更に関してかなり御配慮いただきまして、子どもたちの中には、最初、結構おなかが痛いなどと言う子もいたのですが、3日経ったら笑顔で帰ってきて、「すごく楽しかった」というコメントをいただきました。東海大

佐藤教育長
小泉委員

学にお伺いし初めて知ったのですが、自治体が望星丸を借用して実施する洋上体験研修は、私たちのこの事業しか今はやっていないそうです。引き続き大学側とも連携しながら、事業を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

他はいかがですか。

今の飯田委員と同じで、私も洋上体験研修はとても意義ある体験だと思っていて、ずっと続いてほしいと以前から思っていた事業ではあるのですが、今回この冊子を初めて見たのですが、これを見て、本当に多くの方の協力と綿密な計画や予算があって成立する事業だなと改めて思ったのです。

子どもたちの感想からも、たくさんの気づきとか、寝食を共にしながら人として成長できた様子などが多く記載されていて、次回も参加したいという声が随所であり、とても意義深い体験だったのではないかと思います。

この同じような体験が、どうしても特別なものになってしまうのですが、これからコミュニティ・スクールとか地域学校協働活動とかの中でも模索しながら、地域でできるような活動が少しずつでも実施できていけたらいいのかなと思いました。

佐藤教育長

ありがとうございます。地域でできたらいいなと私も切に願っております。

他はいかがでしょうか。

牛田委員

今、皆さんがお話しされた交流洋上体験研修のことですが、本当に有意義な2泊3日の研修だったのだなという印象を持ちました。残念ながら、台風6号の影響で所期の予定どおりにはいかなかったようですが、子どもたちにとっては実りの多い事業になったように私も感じているところです。

また、生涯学習課長も乗船されたようで、お疲れ様でした。

私も、この冊子はとてもよくできているので読ませていただいて、2ページに逢坂先生の総括責任者としての記述があるのですが、この最後のなお書きのところで、「私たちが乗船した望星丸の二等航海士は、中学生であった時に、この洋上体験に参加していた地元の先輩であったということ」、これに私は驚いたのですね。いわゆる中学校時代のこの体験が、自分自身の将来の決め方とか職業選択につながるという点が、これはうれしいな、すごいなと感じています。

こういった体験をしたことが将来に生きているということを裏付けているのが、先ほど生涯学習課長からも話があった、54ペ

ージのQ8の、研修に参加して、自分自身が変わったと思いますかという問いに、65%が「変わった」と自分自身で自分を見ているのですね。それから、先ほど指摘があった交流については、「良かった」というのが90%を超えていると。チャンスがあれば参加したいというのも7割を超えているところとか、本当に参加した子どもたちにとっては、最初は不安もたくさんあったのだろうけれども、終わってみればこういった結果だったことが、非常に実りが多かったのだなという感想を持ちました。

1つだけ、この報告書の中の保護者の御意見の中ですが、私もそうだなと思ったのですが、59ページの一番下のところ、「できれば研修中の様子を確認できるとより安心感があり、親としては参加させやすくなると思います。できれば動画や写真などをその都度……」——その都度とは言わず、適当な時間、適当なときに配信されてくると、確かに親としても安心できるだろうし、少し子どもの様子が見られてうれしいのではないかという感想を持ちました。

次年度以降、無理のない中で、こういった記録とか配信とかを担当の方が役割として、組織化されて無理のない範囲の中でできればいいかと少し感じました。

最後に、皆さんがおっしゃったとおり、本当に読み応えと見応えのある完成度の高い報告書ができたという印象を持ちました。本当にお疲れ様でした。大変だったと思います。

以上です。

ありがとうございました。

今、牛田委員から、59ページのアンケートの件で、研修の様子を確認できると安心感がある、という御意見のところですが、船の中で、頻繁にはできないのですが、経過報告は、ホームページに掲載しておりました。どうしても船の上は電話もつながらないような状況になってしまうのでタイミングがなかなか難しく、船側のWi-Fiなどを借りながらホームページの更新をしておりました。

恐らく保護者は、もう少し写真や動画について細やかな配信をお願いしたいというようなことなので、実際、動画までできるかということ、なかなか難しかったところもあるのですが、こういう意見を参考にしながら、保護者の皆様に安心していただけるような研修のあり方を検討していきたいと思います。

以上です。

よろしいですか。

佐藤教育長
生涯学習課長

佐藤教育長

牛田委員

他いかがでしょうか。

戻ってしまうのですが、資料No. 4の第3回秦野こども未来づくり会議ですけれども、私も参加させていただいて、当日の子どもたちの活発な意見交換が行われている様子、本当に身近なことに色々に関心を持ちながら、興味を持って日々の生活を送っている子どもたちが多いのだなという印象を持ちました。そうでないと、ここに書いてあるような未来づくりアイデアのそれぞれのテーマが、やはりテーマの意見が高まっていないだろうしテーマそのものも浮かんでこないと思うのですね。日々の自分たちの住んでいる地域とか生活環境とか社会的な事象とか出来事とか、そういったことに日々の生活を送りながら関心を持っている子どもたちが多いのだなということに、本当に感心しました。

今後のことなのですが、先ほど教育指導課長からのお話にもありましたように、東中学校の安藤委員長の言葉のとおりだと、私もそのように思います。これから回を重ねるごとにこの企画、この事業が熟成されていって、秦野の未来づくりに貢献できるような会に育っていけばいいな、とこのような期待をしています。

感想です。以上です。

佐藤教育長

ありがとうございました。

これは、会場に学校運営協議会委員の皆さんが14名来てくださってまして、これもコミュニティ・スクールの成果だろうと思っています。今まで自治会長には学校運営協議会とは別に案内していたのですけれども、恐らく今回が一番たくさん自治会の方が来てくれたのではないかと考えていますので、コミュニティ・スクールの成果で、各学校の校長先生や先生方と自治会の方、地元の方々と顔の見える関係ができているから、こういう場に来ていただけたのかなと私は感じています。

それと、大根地区の自治会連合会会長から、これをどう生かすかがとても重要だよねと言われていたので、私は、子ども条例の意見集約というところに載せるようには話をしてありますけれども、いずれにしても、この出た意見をただアウトプットさせただけで終わらないように所管課では少し配慮していただければと思っています。

他はいかがですか。

牛田委員

今の教育長のつながりの中で、私は先ほど、この秦野の未来づくりに貢献できる会に成長していけばいいと話をさせていただいたところなのけれども、全国的に、市によっては子ども議会などを企画しているような市もあります。ぜひ、こういった会が、

佐藤教育長

教育部長
佐藤教育長

教育総務課長

将来そういった展開につながっていけばいいなと思っています。

前にも少し触れさせていただきましたが、きちんと予算付けなどをしてあげると励みになるのではないかと、10万円とか50万円とかあると子どもたちも喜ぶのではないかと思います。

以上です。

ありがとうございました。

昨年、教育部長が視察に行かれた北陸の方の街でも、若者の意見で予算をつけているという事例がありましたね。

はい。

他はいかがですか。よろしいですか。

それでは、特にないようでしたら、次に、5の協議事項に入りたいと思います。

(1) 令和6年度秦野市一般会計(教育費)予算編成について、説明をお願いします。

令和6年度秦野市一般会計(教育費)予算編成について御説明いたします。A4横判の資料「令和6年度予算当初要求の状況」を御覧ください。これは、令和5年11月10日現在の要求額となっております。

一番下の合計欄を御覧ください。教育部及び文化スポーツ部の要求額の総計は38億4,923万1,000円、令和5年度の当初予算額に対しまして1億4,301万5,000円、3.9%の増加となっております。

また、前年度比マイナス10%の予算要求基準が示されました業務運営費につきましては、13億5,297万6,000円、前年度に比べ1億2,237万1,000円、9.9%の増加となっております。

こちらの要求額及び業務運営費の増加の理由でございますけれども、まず、教育部におきましては、臨時的な経費といたしまして、小・中学校給食の物価高騰対策支援と、小学校の教科書の採択替えに伴う教師用教科書等の購入費用が増額となったこと、また、先ほどシンポジウムの報告をさせていただきましたけれども、次のステップへ向けて学校施設の整備構想策定に向けての新たな経費が発生するということが大きな要因となっております。

また一方、文化スポーツ部におきましては、文化財の保護・管理に係る環境整備の充実のため、所有者への補助を増額したことに加えまして、図書館システムの賃貸借や窓口の委託業務が更新の時期を迎えること、さらに、昨年10月に開始した電子書籍の充実を図ること、こういったことを主な内容として予算が増額と

なっております。

今後、政策部長査定を経て、年明けに示達、そして、その後、市長査定への示達に対する予算の復活要求ということになりますけれども、こういった流れを経まして当初予算額の決定に至る訳ですが、主張すべきところはしっかり主張するということが必要な予算確保に努めてまいりたいと思っております。

なお、令和6年度の重要施策につきましては、次のページにまとめてございますので、御確認いただければと思います。

説明は以上となります。よろしくお願いたします。

佐藤教育長

ありがとうございました。

御意見、御質問等ございますでしょうか。

—特になし—

佐藤教育長

よろしいですか。

では、続いて（2）上小学校長による上幼稚園長の兼職についての説明をお願いします。

教育総務課長

協議事項（2）上小学校長による上幼稚園長の兼職について御説明いたします。

上小学校長による上幼稚園長の兼職につきましては、平成22年度から執行という形で実施してございますけれども、令和6年度の兼職の継続について、神奈川県教育委員会に対し協議依頼をするものでございます。

1ページおめくりいただきますと協議資料となっております。これまでの取組の成果と今後の方針でございますけれども、この小学校長による幼稚園長兼職の取組は、幼稚園と小学校の一体的なマネジメントが実現することによりまして、学びや育ちの連続性が生まれ、非常に大きな教育的効果があるものと評価しております。

また、本校における小学校と幼稚園の施設の一体化、小規模特認校制度の導入といったことが、小規模校の課題である集団性の確保と低学年児童の成長実感の機会の増加につながるなど、全学的に取り組む園小中一貫教育の推進方策としてのみならず、本市の進める義務教育学校等の新たな学びのスタイルによる魅力ある学校づくりの1つのモデルとしても大変大きな成果を上げていると考えてございます。そういったことから引き続き兼職を実施してまいりたいと考えております。

兼職におきまして懸念される小学校長の業務負担増に対する軽減策につきましては、例年と同様の内容といたしまして項番2にまとめてございます。

佐藤教育長

説明は以上となります。よろしく願いいたします。

継続的な取組となりますが、御意見、御質問等ございますでしょうか。

小泉委員

質問ではないのですが、これまでの取組の成果と今後の方針の2行目の「9年間」、これは9年間でよろしいのでしょうか。

教育総務課長

幼稚園と小学校なので8年でした。申し訳ございません。小中一貫教育のところの9年と混ざってしまいました。訂正したいと思います。ありがとうございます。

佐藤教育長

よろしく願いします。

他はいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは次に、その他に入ります。

ヤングケアラーの早期発見と支援体制の充実に向けての説明をお願いします。

教育指導課長

6、その他（1）ヤングケアラーの早期発見についてを御覧ください。

昨年度、ヤングケアラーについて支援体制検討の実態把握のためにアンケート調査を実施したところですが、3分の1の生徒が「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答しており、ヤングケアラーに対する更なる周知が必要であると認識しているため、小学校5、6年生と中学生、市民の方々に、チラシを作成し配布を検討しているところでございます。

周知の仕方といたしましては、掲示や紙面配布、メール配信、紙面とメールの両方と、庁内の打ち合わせで意見が出ているところです。一方で、紙で配布することがどの程度効果があるのか疑問を持つ先生方も多く、牛田委員がよく御存じだと思っておりますけれども、このような依頼が非常にたくさんありまして、クラス担任は毎日たくさんのプリントを配布するのが仕事となっているところです。

また、庁内の各課には、平成30年に1度、また本年11月にも現状をお伝えしているところです。周知の方法について、ぜひ御意見をいただきたく思っております。

以上です。

佐藤教育長

ヤングケアラーの支援体制ということですが、御意見いかがでしょうか。配布、周知の仕方ということだと思っておりますけれども、いかがですか。

牛田委員

1番のアンケート調査の結果概要の部分で、今、教育指導課長から話がありましたけれども、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答したのが32.8%、それに対して「聞いたこと

はあるがよく知らない」が28.3%、「聞いたことはない」が38%ということです。この28.3%と38%を合わせると66.3%、7割弱の子どもたちがあまりよく分かっていない状況ということで、私は、少し割合が高いなという印象を持ちました。

色々と周知をされ工夫されながら、全庁的に、また学校の先生方の協力も仰ぎながら、周知徹底について力を尽くされていると思いますが、一方では、個人情報との絡みがあって、なかなか力を入れにくいというところもあるかと思います。ただ、やはり本人も家族も自覚がない、自分がそれに該当するという自覚がない、これが一番大きな問題ではないかと思うのですね。

そのように考えていくと、アンケートの調査結果に戻りますが、いわゆる聞いたことがあるけれども、よく分からないとか、聞いたことがないというような、この辺の割合をどのように下げていくかというところで、1つ考えられるのは、どこの場面で取り上げたらいいかわからないけれども、道徳でもないし、学級指導の時間でもないし、どこで子どもたちにこれを伝えていったらいいのか、なかなか難しいところではありますが、どこかで時間を工夫していかないといけないのかなと思います。

例えば、5分程度で簡単な説明ができるような紙1枚——やはり配るだけではいけないと思います。簡単に誰でも共通して公平に、5分程度で子どもたちに伝えられるようなペーパーを用意して、それを子どもたちに配布して、担任の先生が朝の会とか帰りの会などで、市の教育委員会とか市役所からこんな話がありましたなどを伝えるのも1つの方法なのかどうかですね。

私も何がいいかというのは分からないですが、やはり一番の問題は、元に戻りますが、本人も家庭もその自覚がないということが一番大きな問題だと思うので、その辺りを少しずつ解消していかないといけないだろうなと思います。

これは感想です。以上です。

ありがとうございました。

ほかいかがですか。

ヤングケアラーのことは、今、牛田委員がおっしゃったように、本人自身が自覚していないという部分が多分にあると思うのですね。その子どもたちを拾い上げてあげることが大事なので、本当にある程度、クラスに行っても1人とか2人とか、たくさんのお子さんではないと思うのですけれども、それを拾い上げていくってすごく難しいなと思っています。

佐藤教育長

小泉委員

以前も少し児童館に来ていただく子のお話をしましたが、親御さんとか家庭と関わるという意味から言うと、やはり担任の先生が気付いてあげられれば一番いいのでしょうかけれども、担任の先生もたくさんのお子さんたちを抱えているので、それもなかなか難しいと思います。今、チラシもたくさんあり過ぎて、例えば公民館とかに行ってもチラシがたくさん貼ってあるのですが、たくさんあり過ぎて、私も、結局はどれも見ずに帰ってくるような状況があります。それでも少し端に並べてあって、その中から幾つか見て、欲しいものを1つ2つ取りますが、あまりにもいっぱいあり過ぎて、本当に見ない状況が続いていたと思います。

あとは、ビデオなどの映像でうまくまとめられたら、そういうものを少し見るというのも今のお子さんたちにはいいのかなと、牛田委員のお話を聞きながら思いました。

佐藤教育長
飯田委員

飯田委員、いかがですか。

お二人が言われたとおり、やはり本人とか家族の自覚がほとんどないのかなと。自分がヤングケアラーというのは、逆に恥ずかしいと思う子どもがもしかしたらいるのかもしれないし、それが、逆にばかにされたりいじめの対象になってしまったり、そういうことも少し心配なところではあるのかなと思います。感想です。

佐藤教育長

非常にデリケートな問題だということは思っているのですが、今、牛田委員からも、ただ配るだけではというお話もありましたし、そうするとまた、学校の先生に対して依頼をしなければいけないという話もあります。しかし、小泉委員からビデオなどの映像でということですが、今回も教育総務課がつくった動画を生徒会の代表の子に見せましたら、動画はよく見ていました。それと、こここのところ部活動の視察が多くて動画をつくったのですが、非常にレベルが高く、動画もよいのかなと思いました。

いずれにしても、今いただいた御意見でまた少し事務局で判断していきたいと思います。私がこういう聞き方をさせていただいているのは、教育委員会会議の意義づけといったところで、文部科学省の研修などにも皆さん参加されていて、単に意見を聞くだけではなくて、その意見をうまく活用していくというフェーズになっていると思いますので、ぜひ、今の御意見を伺わせていただいたことをベースに事務局で判断していきたいと思います。

ありがとうございました。

この件はよろしいですか。ありがとうございます。

そうしましたら次に、日程の確認をお願いします。

事務局

次回の定例教育委員会会議ですけれども、年明け1月19日金

佐藤教育長

曜日、午後1時30分から、こちらの会場で予定しております。
よろしくお願いたします。
以上でございます。
ありがとうございました。
ただいまから、会議を非公開とさせていただきます。関係者以外の方の退席をお願いしたいと思います。
—関係者以外退室—